

AI画像スキャン値付け導入事例 AIで食品表示管理の精度が向上 属人化を解消し、業務の効率化を実現



動画のご案内

株式会社 ヤオコー 様



お客さまプロフィール

- 社名：株式会社 ヤオコー
- 事業内容：スーパーマーケット事業
- 従業員数：18,285名（2025年3月31日現在）

Webサイトはこちら

導入経緯

埼玉県を中心に、関東地方で200店舗のスーパーマーケットを展開するヤオコー様。ワクワクできる空間づくりに力を入れており、特色ある惣菜や弁当を豊富に取りそろえるデリカ事業部は、競合との差別化における重要なポイントとなっています。今回、インスタアベーカーでの食品表示ラベルの貼り付け作業に「AI画像スキャン値付け」を導入。作業精度の向上を実現しました。

*2025年11月現在

Before

- ・商品を見た目で判別。見間違いや機器の誤操作によるラベル発行ミスが発生
- ・部門責任者が不在の際、代替りの従業員による発行対応でリスクが増加
- ・商品改廃が多く、本部での新商品マスタ登録作業の負担が大きい

After

- ・商品をスキャンしAIが画像を解析。**99%台後半の精度で正しいラベルを自動発行**
- ・パートナー（パート）社員でも正確なラベル発行が可能となり、**属人化を解消**
- ・1品あたり10数秒程度の撮影で、**マスタ登録作業を大幅に効率化**

導入製品・システム

Before

- 目視確認
- 操作画面タッチ
- 音声読み上げ
- ラベル発行
- 値付け
- ダブルチェック

人による確認作業で
食品インシデント対策

ヒューマンエラーのリスク

After

食品インシデント対策ソリューション

AI画像スキャン 値付け

AIが商品を自動判別



商品呼び出し

AIによる画像解析

商品確認・発行指示

プレビュー／音声確認

ラベル発行・値付け

音声確認

読み上げ

読み上げ

+ 陳列時のダブルチェック

AIによりヒューマンエラーのリスクを解消

株式会社ヤオコー デジタル統括部 DX推進担当部長 池田 鉄哉 様 DX推進主事 那和 弘之 様
店舗サポート部 カイゼン担当 インストアベーカーリートレーナー 新井 裕之 様

背景・課題

約100品目の商品を、目視で正確に判別していく難しさ



池田 様

池田氏：食品を取り扱う全ての事業者にとって、ラベルミス（ラベルの貼り間違い）の撲滅は長年の重要課題です。当社のデリカ事業部門でも音声による読み上げやダブルチェックなど、毎年改善に取り組んできました。しかし商品の改廃が頻繁に実施され、人手が不足し作業も増加する状況にあって、ラベルミスをゼロにするのは大変難しいことです。そして属人的な作業方法にも限界を感じていました。

新井氏：ベーカリー部門では1日に約100品目、900個を店内で製造しています。ラベル貼り付け作業では、まず部門責任者が目視で商品名を判別し、ラベルを発行。パートナー（パート）社員が商品とラベルを照合するというダブルチェック体制が基本でした。ラベル発行の際には、一覧表から該当品の番号を探して手入力する工程があり、間違いが起きるリスクは避けられず手間もかかっていました。また、責任者が休みの日にパートナー社員が代わりに対応するとさらにリスクが高まるという課題がありました。

池田氏：そこへご紹介いただいたのが、AI画像スキャン値付けでした。商品をスキャンすればAIが瞬時に商品を特定し、正しいラベルを発行する。そこに大変魅力を感じ、店舗実証の形で開発にご協力することになりました。試作機のデモンストレーションを拝見したとき、精度の高さに衝撃を受けました。当社は2週間に1度は新商品の発売やリニューアルがあるため、マスター登録業務のスムーズさは重要な選定ポイントでした。



効果・評価

スムーズなマスタ登録や、99%台後半の特定精度

池田氏：まずは、本部におけるマスタ登録の簡便性と、その精度を高く評価しています。他社のシステムは、別のデジタルカメラなどで撮影した商品画像をシステムに取り込んで登録するものがほとんどでした。ただ、その方法だと現場で実際に使用する機器でスキャンした場合との差が大きいうので、正確かつスムーズな判別がされにくく、時間をかけて設定調整する必要がありました。一方、AI画像スキャン値付けは現場と同じAIカメラで商品を撮影しマスタ登録するため、調整の手間がありません。撮影もボタンを押すだけ。1商品につき10秒程度で登録が完了してしまいます。



那和 様

那和氏：定量的な評価は今後になりますが、現場では明らかにラベルの発行ミスが削減されました。見分けにくい商品も導入当初から高い精度で判別していますが、さらにAIの学習効果により判別精度が日を追って高まっています。

新井氏：酷似した商品は断面をスキャンするなどの工夫も加え、現在99%台後半の確率で特定できるようになりました。これは店舗スタッフらがいちばん喜んでおり、「もう元の方法には戻れない」と話しています。



新井 様

池田氏：現在、ベーカリー部門へのAI画像スキャン値付け導入を拡大しており、今後も維持して活用していく方針です。さらにデリカ事業で重要な惣菜・寿司部門にも導入していきたいと考えています。惣菜・寿司部門では量り売りをするため、商品の判別に加えて「計量」が必要です。この課題に対応するためにサトーさんが計量器メーカーさんと連携し計量機能を備えたシステムを開発されていると聞きしました。今後は、計量器連携モデルの実証実験および本格導入を進めていく計画です。

株式会社サトー お問い合わせ先 ☎ 0120-226310
www.sato.co.jp 受付時間：24時間365日

全国の営業拠点一覧はこちらへアクセスしてください

■記載内容は2025年11月現在のものです。
■製品改良のため断りなく仕様を変更することがありますのでご了承ください。
■いかなる形式でも本誌の一部または全部の複製および無断転載をお断り致します。
■記載されている会社名、ソフトウェア名、製品名などは各社の商標、または登録商標です。

